

親睦活動を通したつながり

2023年9月、伊藤三之ガバナー公式訪問時にバッジを贈呈いただいたことを鮮明に覚えています。わたしは通信機器の販売や保守を営んでおりネットワークと機械をつなぐ技術職として仕事をしてきました。我が社名にも入っている通信 (communication) という文字が機械だけでなく人と人のつながりのコミュニケーションも意味するものだと考え、職業を通し様々な方々と繋がり、自分も繋げられるよう活動してみたいと思ったのがきっかけでロータリアンとなりました。

入会して3年目、今では親睦活動委員長を務めるまでになりました。23年12月の年末に当時の副会長から一本の電話がありました。「齋藤君に親睦委員の副委員長になってほしい」との事でした、ロータリーの返事は「はい」か「yes」か「喜んで」のみと教えられていた自分は二つ返事で承し、その時は委員長の補助を頑張ろうとしか思っていませんでした。が、後日、副委員長が次年度の委員長になるんだよと教えられ少しだけ天を仰いだのはここだけの話です。実際に副委員長としてサポートしながら、納涼会、芋煮会、クリスマス、新年会、創立記念、観桜会、最終例会と7つの移動例会を通しロータリーとはどのような団体なのかという基本のところを学べたのは自分にとってとても良い経験になりました。

25-26年度、いよいよ私が委員長をする年度が始まりました。今も親睦の委員に残っていただいている山村義美さん(前年度委員長)からは「齋藤君の思った通りにやっていいんだよ」と心強い励ましをいただき納涼会の準備に取り掛かりました。私は毎回1つのテーマに沿った内容にしたい、と考えていた矢先、町内で活躍しているフラサークルが踊りを披露してくださることになり、「ハワイの風を感じる納涼会」と称し町内の懇意にしている魚屋さんに新鮮な海鮮物を注文し海鮮BBQや生ガキをメインとしたビアパーティを企画、大変喜んでいただくことができました。次の移動例会は芋煮例会、ここでは日本一の芋煮会ならぬ「日本一の美味しい芋煮例会」と銘打って企画、エビデンスとして農林水産大臣賞を受賞した高畠RC会員の醤油とタレを使用し、親睦メンバーで一から作り上げた本当に美味しい日本一の芋煮がとても好評でした。次のクリスマス例会では「家族ファースト」を掲げ、家族はもちろん同伴者、お子さんお孫さんが来年も参加したいと思ってもらえるようにと料理・飲み物には存分に気を使い、イントロクイズや委員会対抗歌合戦、サンタクロースに扮した会員から子供たちへのプレゼントなど様々なアトラクションを企画し終始盛り上がりを見せたパーティーとなりました。新年会では、やまがた舞子を招き「創立60周年に向けておもてなしの心を学ぼう」をテーマにしたものを企画中です。

活動を通して思ったのは、新会員には先ず親睦委員になってもらう事、私が良い例でこれは高畠RCの田中先生の著書「ロータリクラブに入ろう！」にも記述されており、移動例会の計画・実行過程においていろいろな会員の顔と名前を覚えるのに好都合と、とても理に適っていることだと思います。併せて個々の会員やご家族との繋がり、来賓や関係者各位との繋がり、地域の商店との繋がりを実

感しながら押し付けではない双方向での情報共有能力が学べ、身に付く貴重な体験ができるのではないのでしょうか。そして最後に何と言っても楽しい！この一言に尽きます。まだまだ続くと思われるロータリー人生、できれば最後まで楽しく仲間と過ごさせてあげたいと思います。